

第2章 店舗形態別価格

この章では、構造編の店舗形態別価格調査（※）等から得た情報を基に特別集計した結果を用いて、第1節及び第2節では店舗形態別の価格水準、第3節では店舗形態別の価格分布の状況、第4節では店舗形態別の価格の動きについて、それぞれ解説する。

（※）構造編の店舗形態別価格調査は、スーパー・一般小売店・量販専門店などの店舗形態の違いによる価格の違いを把握するため、全国の道府県庁所在市（46市）において小売価格を調査している（東京都は、動向編において様々な店舗形態の価格が得られているため、構造編では調査を行っていない）。

調査品目は、比較対象となる各店舗形態において価格調査が可能な品目の中から、9品目を選定している。

集計においては、構造編の調査価格に加え、動向編で調査している全ての道府県庁所在市の店舗の価格も利用している。構造編の店舗形態別価格調査の調査店舗の選定は、比較対象となる各店舗形態が原則同数となるように行っている。例えば、食料品の場合、スーパーと一般小売店の価格差を比較することを目的として調査を行っており、動向編では主にスーパーを選定しているため、構造編では原則として一般小売店を選定している。

1 スーパーと一般小売店の比較

- ◆ うるち米、コロッケ及び清酒はスーパーの価格が低い
- ◆ 豚肉は一般小売店の価格が低い
- ◆ 2016年（平成28年）結果と比較すると、うるち米で価格水準の差が縮小

スーパーと一般小売店の価格差を比較することを目的として調査している4品目（うるち米^{（注1）}、豚肉^{（注2）}、コロッケ及び清酒^{（注3）}）の年平均価格^{（注4）}をみると、うるち米、コロッケ及び清酒は、スーパーの価格が低くなっている。一方、豚肉は一般小売店の価格が低くなっている。

また、スーパーの年平均価格を100として一般小売店の価格水準をみると、コロッケ（117.0）が最も水準の差が大きくなっている。

2016年（平成28年）結果と比較すると、コロッケでは価格水準の差が拡大している。拡大した要因は、年平均価格について、価格の高い一般小売店が上昇し、価格の低いスーパーについては変化がなかったことによる。

一方、うるち米では価格水準の差が縮小している。縮小した要因は、年平均価格について、価格の低いスーパーの上昇率が、価格の高い一般小売店の上昇率を上回ったことによる。

（表2-1，図2-1）

（注1）うるち米は、単一原料米（コシヒカリ以外）を調査している。

（注2）豚肉は、バラ（黒豚を除く）を調査している。

（注3）2017年に調査を開始した品目

（注4）全都道府県庁所在市（全47市、東京都については東京都区部）の年平均価格

表 2-1 調査対象 4 品目の店舗形態別年平均価格及び価格水準

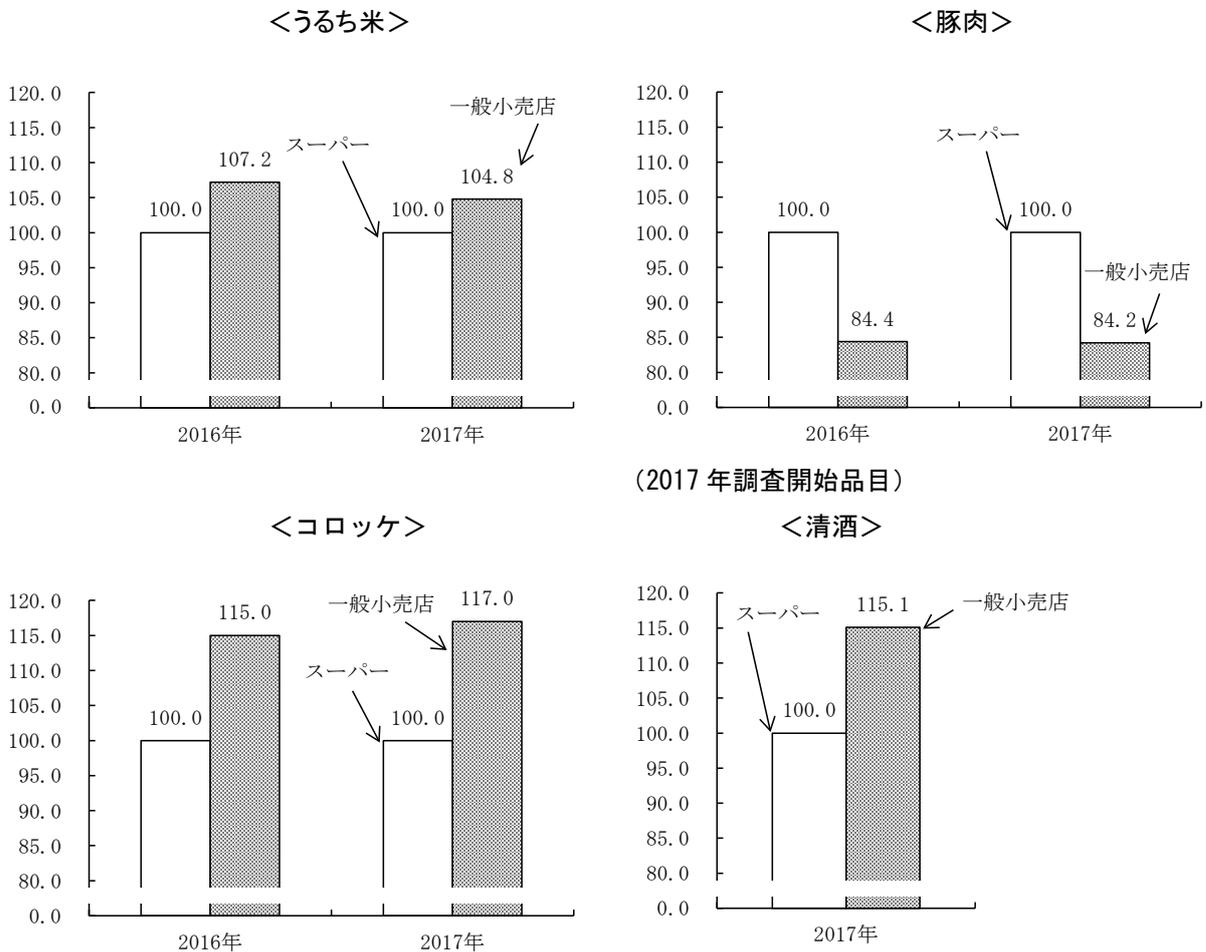
品目 (単位)	店舗形態	2017 年			2016 年			2016 年との比較 (2017 年-2016 年)	
		年平均 価格 (円)	価格 水準 (注5)	価格水準 の差 (注6)	年平均 価格 (円)	価格 水準 (注5)	価格水準 の差 (注6)	年平均 価格の 変化 (円)	年平均 価格の 変化率 (%)
うるち米 (1袋(5kg))	スーパー	2,026	100.0	-4.8	1,913	100.0	-7.2	113	5.9
	一般小売店	2,124	104.8		2,051	107.2		73	3.6
豚肉 (100g)	スーパー	234	100.0	15.8	231	100.0	15.6	3	1.3
	一般小売店	197	84.2		195	84.4		2	1.0
コロッケ (100g)	スーパー	100	100.0	-17.0	100	100.0	-15.0	0	0.0
	一般小売店	117	117.0		115	115.0		2	1.7
清酒 (1本(2,000mL))	スーパー	1,011	100.0	-15.1	-	-	-	-	-
	一般小売店	1,164	115.1		-	-		-	-

「-」:2017年調査開始品目のため、当該数値がない。

(注5) 価格水準は、各年のスーパーの年平均価格を 100.0 とした際の値

(注6) 価格水準の差=「スーパー」の価格水準-「一般小売店」の価格水準

図 2-1 調査対象 4 品目の店舗形態別価格水準 (スーパーの年平均価格=100)



(2017年調査開始品目)

2 スーパーと量販専門店の比較

- ◆ ラップはスーパーの価格が低い
- ◆ 洗濯用洗剤、ドリンク剤、紙おむつ及び整髪料は量販専門店の価格が低い
- ◆ 2016年（平成28年）結果と比較すると、洗濯用洗剤で価格水準の差が拡大

スーパーと量販専門店の価格差を比較することを目的として調査している5品目（洗濯用洗剤、ドリンク剤、紙おむつ、ラップ^(注1)及び整髪料^(注1)）の年平均価格をみると、ラップを除いて量販専門店の価格が低くなっている。

また、スーパーの年平均価格^(注2)を100として量販専門店の価格水準をみると、ドリンク剤が91.3と最も水準の差が大きく、次いで整髪料（95.3）となっている。

2016年（平成28年）結果と比較すると、洗濯用洗剤及び紙おむつでは価格水準の差が拡大している。拡大した要因は、年平均価格について、洗濯用洗剤は価格の低い量販専門店の下落率が、価格の高いスーパーの下落率を上回ったことによる。また、紙おむつは、価格の高いスーパーの上昇率が、価格の低い量販専門店の上昇率を上回ったことによる。

一方、ドリンク剤では価格水準の差が縮小している。縮小した要因は、年平均価格について、価格の高いスーパーが下落し、価格の低い量販専門店が上昇したことによる。

（表2-2、図2-2）

（注1）2017年に調査を開始した品目

（注2）全都道府県庁所在市（全47市、東京都については東京都区部）の年平均価格

表2-2 調査対象5品目の店舗形態別年平均価格及び価格水準

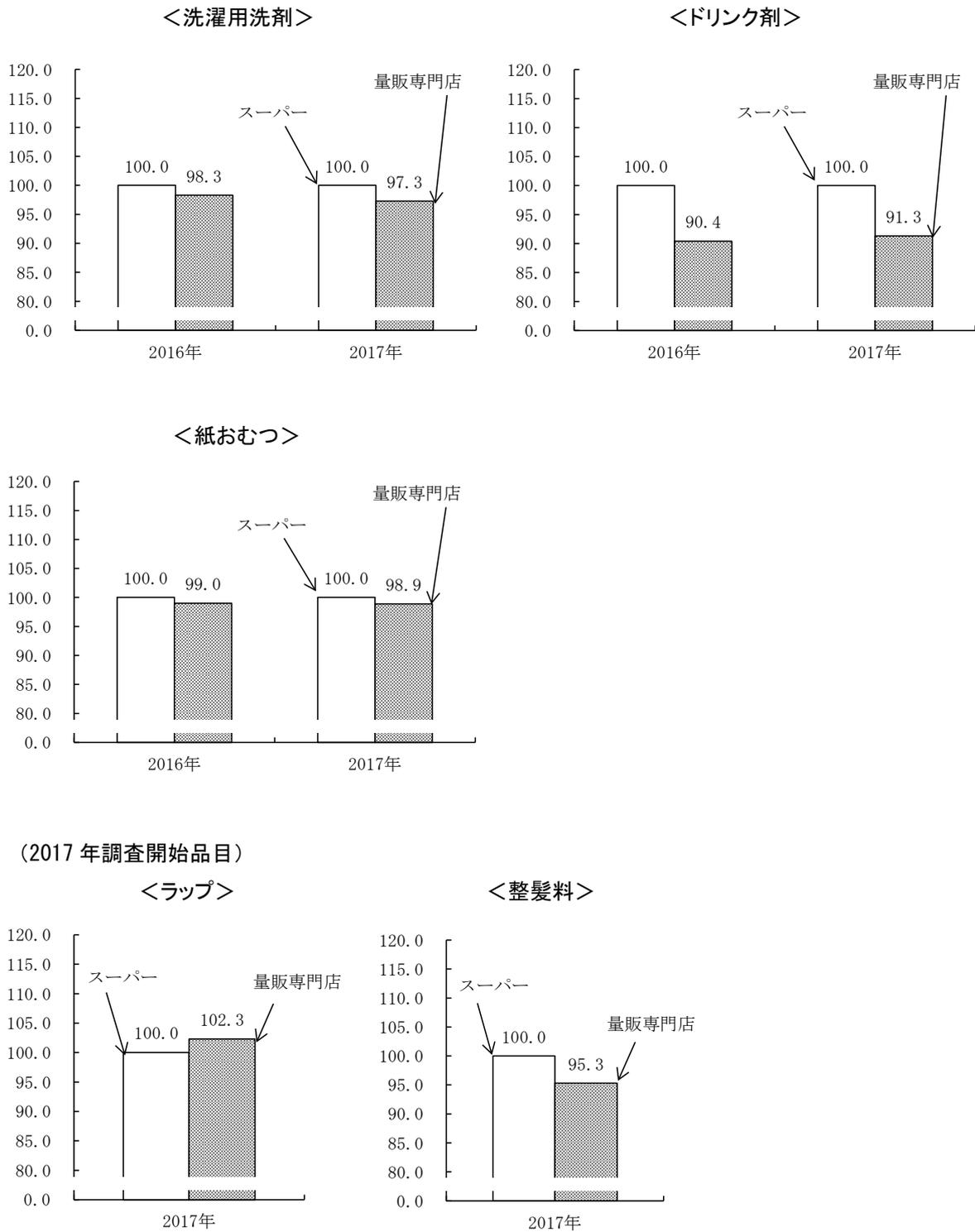
品目（単位）	店舗形態	2017年			2016年			2016年との比較 (2017年-2016年)	
		年平均 価格 (円)	価格 水準 (注3)	価格水準 の差 (注4)	年平均 価格 (円)	価格 水準 (注3)	価格水準 の差 (注4)	年平均 価格の 変化 (円)	年平均 価格の 変化率 (%)
洗濯用洗剤 (1kg(液体))	スーパー	297	100.0	2.7	301	100.0	1.7	-4	-1.3
	量販専門店	289	97.3		296	98.3		-7	-2.4
ドリンク剤 (1箱(100mL×10本))	スーパー	1,093	100.0	8.7	1,098	100.0	9.6	-5	-0.5
	量販専門店	998	91.3		993	90.4		5	0.5
紙おむつ (大人用, 10枚)	スーパー	711	100.0	1.1	694	100.0	1.0	17	2.4
	量販専門店	703	98.9		687	99.0		16	2.3
ラップ (1本(幅22cm×長さ50m))	スーパー	301	100.0	-2.3	-	-	-	-	-
	量販専門店	308	102.3		-	-		-	-
整髪料 (1個(80g))	スーパー	726	100.0	4.7	-	-	-	-	-
	量販専門店	692	95.3		-	-		-	-

「-」:2017年調査開始品目のため、当該数値がない。

（注3）価格水準は、各年のスーパーの年平均価格を100.0とした際の値

（注4）価格水準の差＝「スーパー」の価格水準－「量販専門店」の価格水準

図 2-2 調査対象 5 品目の店舗形態別価格水準（スーパーの年平均価格=100）



3 価格分布の状況について

ここでは、2017年（平成29年）に調査した店舗の価格情報を利用して価格分布（10%点、25%点、50%点、75%点及び90%点）及びその他の統計量（「(参考)用語の説明」を参照）に関する特別集計の結果について紹介する。

なお、年の途中で銘柄改正を行った場合は、改正月以降の月に限定して集計している。

(1) スーパーと一般小売店の比較

- ◆ うるち米、コロッケ及び清酒は、スーパーに比べ一般小売店の価格の分布の広がりが大きい
- ◆ 価格の散らばり度合いはスーパー、一般小売店共にコロッケが大きい

スーパーと一般小売店の比較を目的とした4品目について、それぞれ店舗形態別に10%点、25%点、50%点、75%点、90%点の価格を比較することにより、店舗形態別の価格分布の状況をみる。

うるち米は、10%点では同価格となっているが、それ以外のいずれの%点においても一般小売店の価格はスーパーの価格よりも高くなっている。

豚肉は、他の品目と異なり、いずれの%点においても一般小売店の価格はスーパーの価格よりも低くなっている。

コロッケ及び清酒は、いずれの%点においても一般小売店の価格はスーパーの価格よりも高くなっている。

次に、四分位範囲により価格の広がりをみると、すべての品目において、スーパーに比べ一般小売店が大きくなっている。

(表2-3, 図2-3)

さらに、四分位分散係数により価格の散らばり度合いをみると、スーパー、一般小売店共に、コロッケの価格の散らばり度合いが最も大きく、うるち米及び清酒が最も小さくなっている。

(表2-3, 図2-4)

表2-3 調査対象4品目の店舗形態別価格分布に関する統計量

	うるち米		豚肉		コロッケ		清酒	
	スーパー	一般小売店	スーパー	一般小売店	スーパー	一般小売店	スーパー	一般小売店
価格数	1,707	1,155	1,717	1,169	1,734	1,146	1,065	795
平均価格(円) ^(注)	2,042	2,132	234	197	101	118	1,010	1,157
90%点(円)	2,257	2,500	277	250	130	157	1,105	1,390
75%点(円)	2,139	2,300	257	216	111	135	1,045	1,296
50%点(円)	2,030	2,106	235	194	100	115	977	1,134
25%点(円)	1,922	1,950	213	170	90	97	950	1,023
10%点(円)	1,814	1,814	192	151	70	83	927	930
四分位範囲(円)	217	350	44	46	21	38	95	273
四分位分散係数	0.05	0.08	0.09	0.12	0.11	0.17	0.05	0.12

(※) 各統計量の算出方法は、後述の「(参考)用語の説明」を参照

(注) 特別集計における平均価格は、2017年（平成29年）の偶数月に調査した店舗の価格を単純算術平均したものである。そのため、店舗形態別価格調査の統計表に掲載されている年平均価格とは必ずしも一致しない。

図 2-3 調査対象 4 品目の店舗形態別価格分布図

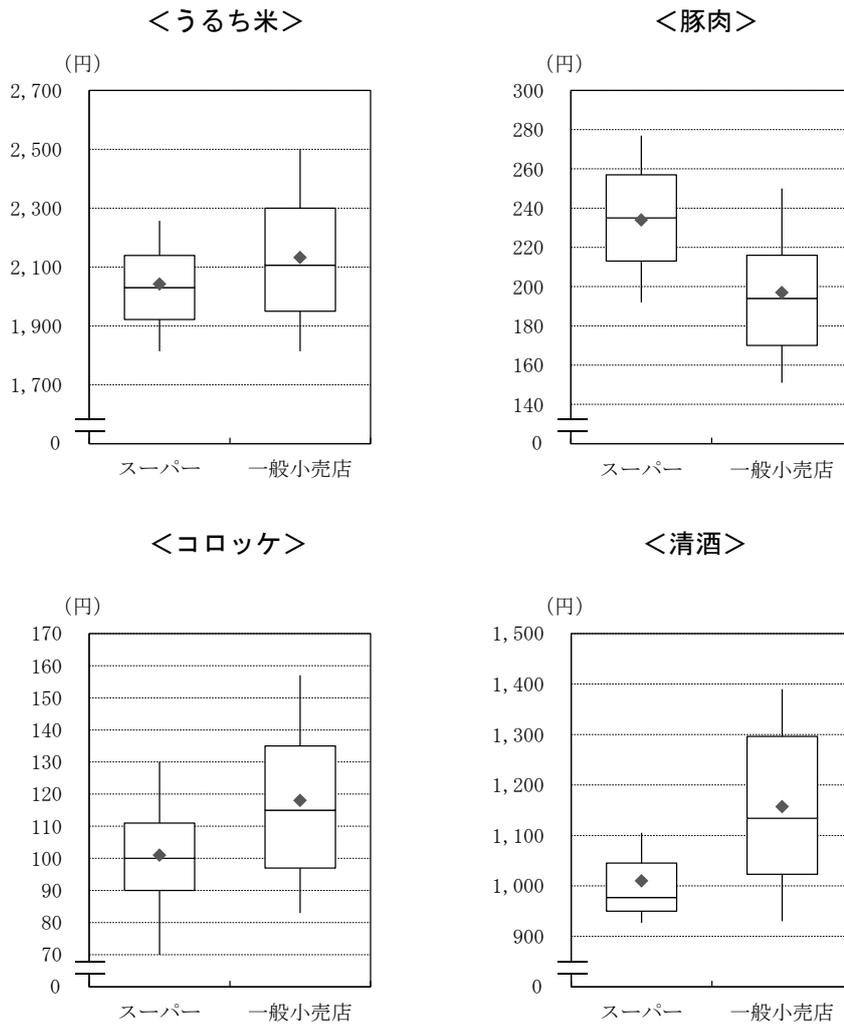
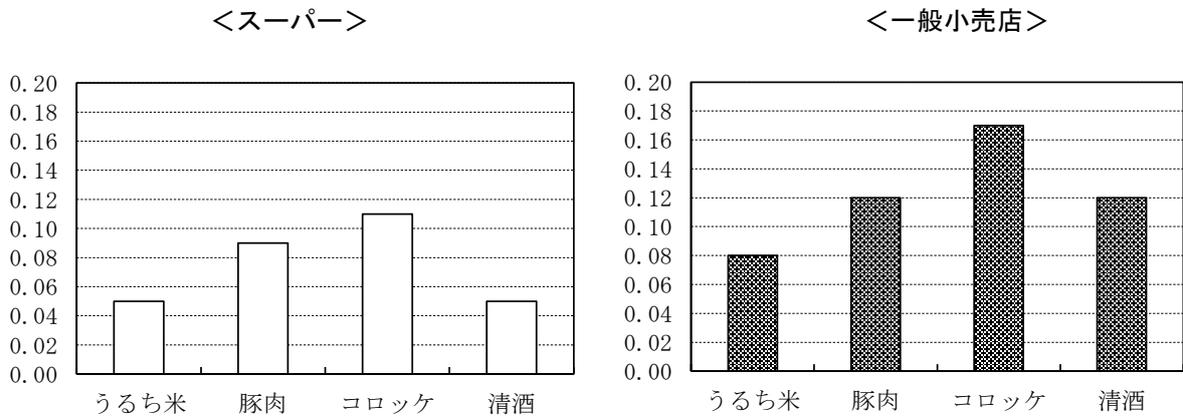


図 2-4 調査対象 4 品目の店舗形態別価格の散らばり度合い (四分位分散係数)



(2) スーパーと量販専門店の比較

- ◆ 価格分布はスーパー、量販専門店で異なる傾向が見られる
- ◆ 価格の散らばり度合いはスーパー、量販専門店共に洗濯用洗剤が大きい

次に、スーパーと量販専門店の比較を目的とした5品目について、店舗形態別の価格分布の状況を見る。

洗濯用洗剤は、10%点及び75%点の価格が量販専門店とスーパーで一致しているなど、似た分布状況となっている。

ドリンク剤及び整髪料は、いずれの%点においてもスーパーに比べ量販専門店の価格が低くなっている。

紙おむつは、90%点を除いては、スーパーに比べ量販専門店の価格が高くなっている。

ラップは、いずれの%点においても量販専門店の価格はスーパーの価格よりも高くなっている。

次に、四分位範囲により価格の広がりを見ると、ドリンク剤、ラップ及び整髪料については、スーパーに比べ量販専門店が小さくなっている。一方、洗濯用洗剤及び紙おむつについては、スーパーに比べ量販専門店が大きくなっている。

(表2-4, 図2-5)

さらに、四分位分散係数により価格の散らばり度合いを見ると、スーパー、量販専門店共に洗濯用洗剤が最も大きくなっている。一方、スーパーはドリンク剤及び紙おむつ、量販専門店はドリンク剤が最も小さくなっている。

(表2-4, 図2-6)

表2-4 調査対象5品目の店舗形態別価格分布に関する統計量

	洗濯用洗剤		ドリンク剤		紙おむつ		ラップ		整髪料	
	スーパー	量販専門店	スーパー	量販専門店	スーパー	量販専門店	スーパー	量販専門店	スーパー	量販専門店
価格数	1,537	1,354	915	951	1,423	1,451	1,560	1,330	956	976
平均価格(円) ^(注)	294	293	1,090	996	711	706	299	307	725	691
90%点(円)	357	360	1,274	1,058	775	739	353	356	821	820
75%点(円)	330	330	1,111	1,026	729	734	311	321	772	718
50%点(円)	290	278	1,059	1,002	687	706	298	300	718	710
25%点(円)	263	252	1,026	980	673	677	276	289	689	645
10%点(円)	237	237	968	906	663	672	267	277	648	594
四分位範囲(円)	67	78	85	46	56	57	35	32	83	73
四分位分散係数	0.12	0.14	0.04	0.02	0.04	0.04	0.06	0.05	0.06	0.05

(※) 各統計量の算出方法は、後述の「(参考)用語の説明」を参照

(注) 特別集計における平均価格は、2017年(平成29年)の偶数月に調査した店舗の価格を単純算術平均したものである。
そのため、店舗形態別価格調査の統計表に掲載されている年平均価格とは必ずしも一致しない。

図 2-5 調査対象 5 品目の店舗形態別価格分布図

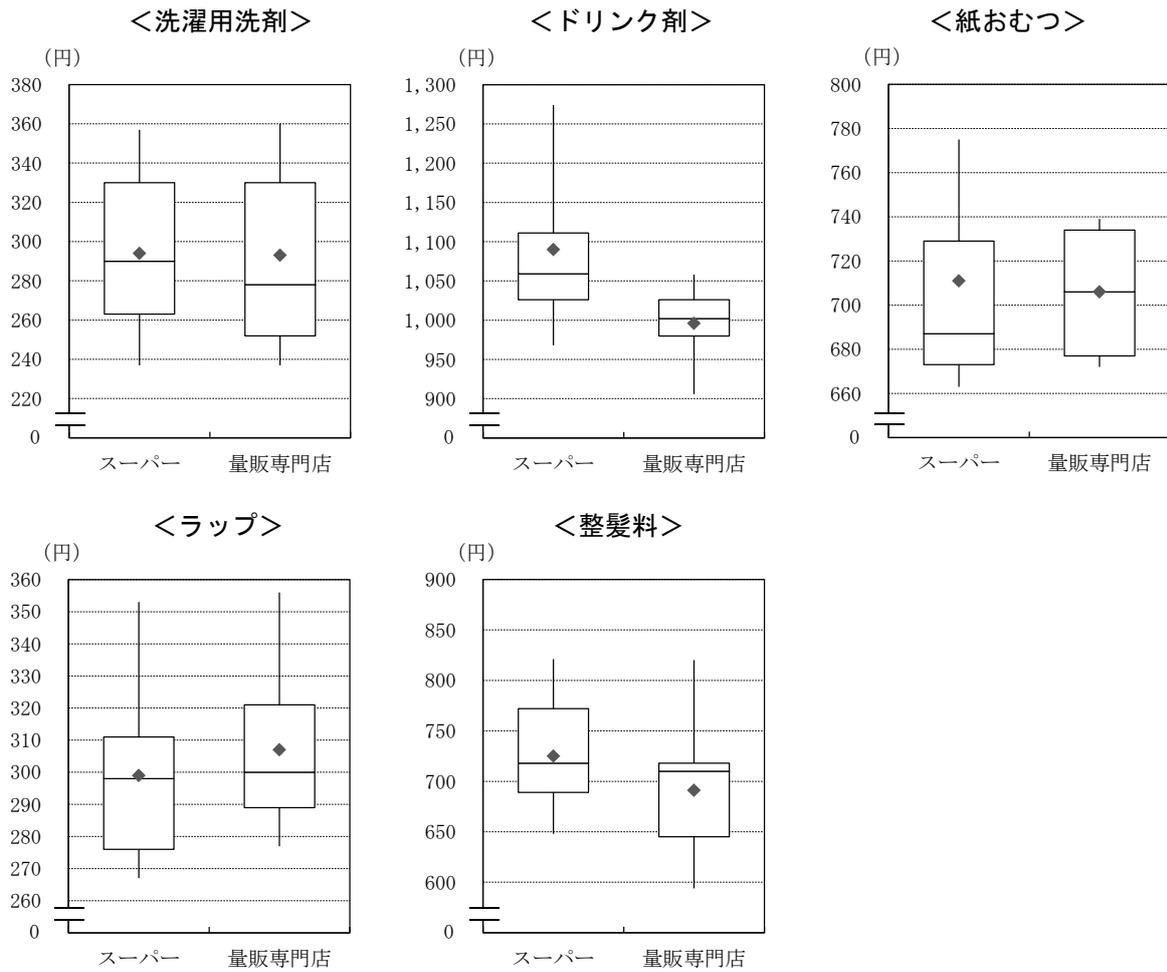
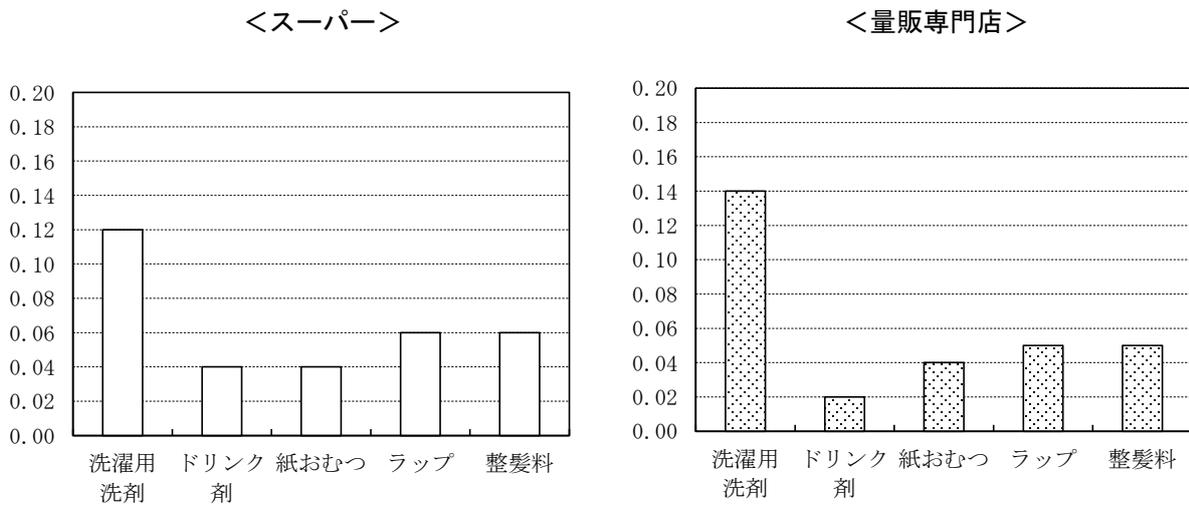


図 2-6 調査対象 5 品目の店舗形態別価格の散らばり度合い (四分位分散係数)



(参考) 用語の説明

(1) 各統計量について

・ %点

調査された店舗の価格を価格の低い方から並べ、低い方から数えて 25%、50%、75%に当たる点を 25%点、50%点、75%点として求めている。25%点は第1四分位点、50%点は第2四分位点、75%点は第3四分位点という。

なお、今回の集計では、分布の全体的な状況を把握するため、10%点、90%点も求めている。

・ 四分位範囲

75%点（第3四分位点）と25%点（第1四分位点）の差をいう。

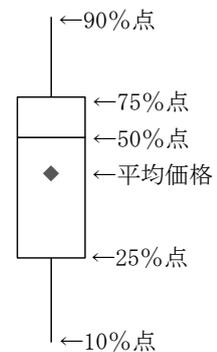
・ 四分位分散係数

四分位範囲の2分の1を求め、それを50%点で除した値。これにより、価格の散らばり度合いを品目間で比較することが可能となる。

(2) 価格分布図（右図）

平均価格や各%点の水準を視覚的に表したもの。価格の広がり、四分位範囲をみることで把握することができ、この差が小さければ価格の広がりが小さく、大きければ価格の広がりが大きいといえる。

なお、これらの点のうち、二つ又はそれ以上の点が一致することもあり得る。



4 店舗形態別の価格の動き

ここでは、各調査品目について、調査開始年月^(注1)のスーパーの平均価格（全都道府県庁所在市の平均価格）を100として、そこから2017年12月までの期間について、各調査月（偶数月（2月、4月、6月、8月、10月及び12月））の平均価格を指数化し、店舗形態別の価格の動きを確認する。

(1) スーパーと一般小売店の比較

うるち米は、スーパーについては、2015年8月まで下落していたが、以降は上昇傾向にあり、一般小売店については、2015年4月まで下落していたが、以降は上昇傾向にある。また、価格水準差^(注2)をみると、2015年8月まで拡大する傾向がみられ、以降は縮小傾向にある。

豚肉は、スーパー及び一般小売店共に、2015年6月からほぼ横ばいで推移していたが、2017年後半から上昇傾向となっている。また、価格水準差をみると、2015年12月のピーク以降、縮小する傾向がみられたが、2017年6月以後は、拡大する傾向がみられる。

コロッケは、スーパー及び一般小売店共に、2013年2月から2017年12月までの間に、2014年4月^(注3)を除いて緩やかに上昇している。価格水準差をみると、2014年から2015年始めに最大となった19.8ポイントから、2016年はやや縮小していたが、2017年に入ると拡大し、再び最大の19.8ポイントとなっている。

清酒は、2017年の状況を見ると、スーパーについては、6月を除いて下落しており、一般小売店については、4月及び8月を除いて上昇している。また、価格水準差をみると、6月まで縮小していたが、8月以後は拡大している。

(図2-7)

(注1)「清酒」，「ラップ」及び「整髪料」は2017年2月。それ以外の品目は2013年2月。

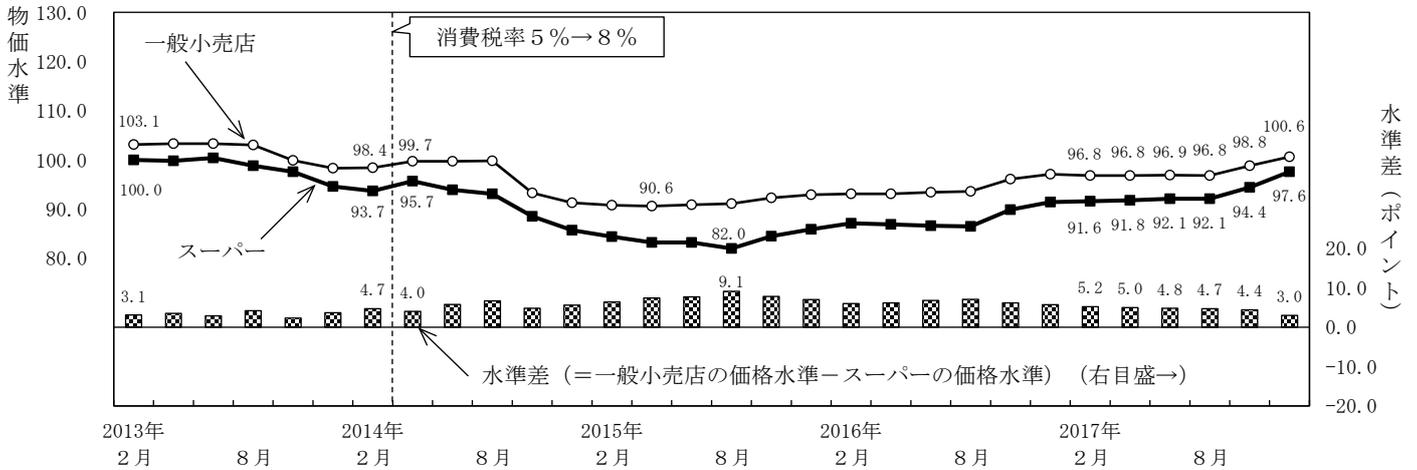
(注2) 価格水準差＝「一般小売店」の価格水準－「スーパー」の価格水準

(注3) 2014年4月に消費税率が5%から8%に引き上げられた。

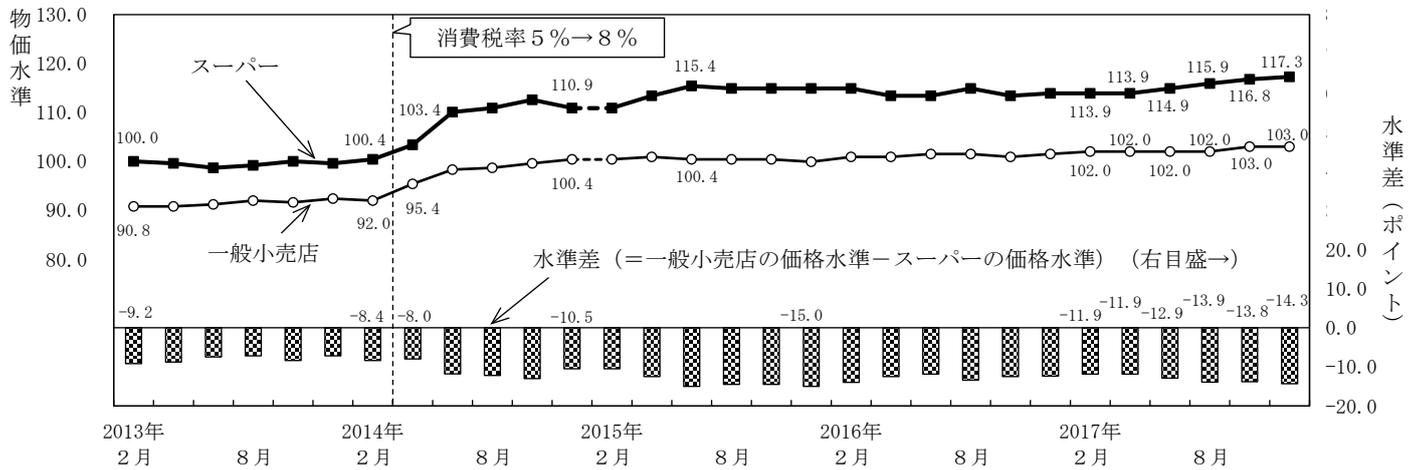
図 2-7 調査対象 4 品目の店舗形態別価格の動き

(2013年2月のスーパーの平均価格=100)

<うるち米>



<豚肉>



(※) グラフ上の破線 (---) は、対象期間に実施した銘柄改正のうち、旧銘柄と新銘柄で明確な品質差が存在したため、前々月と同指数 (保合) として接続していることを表している。

<コロッケ>

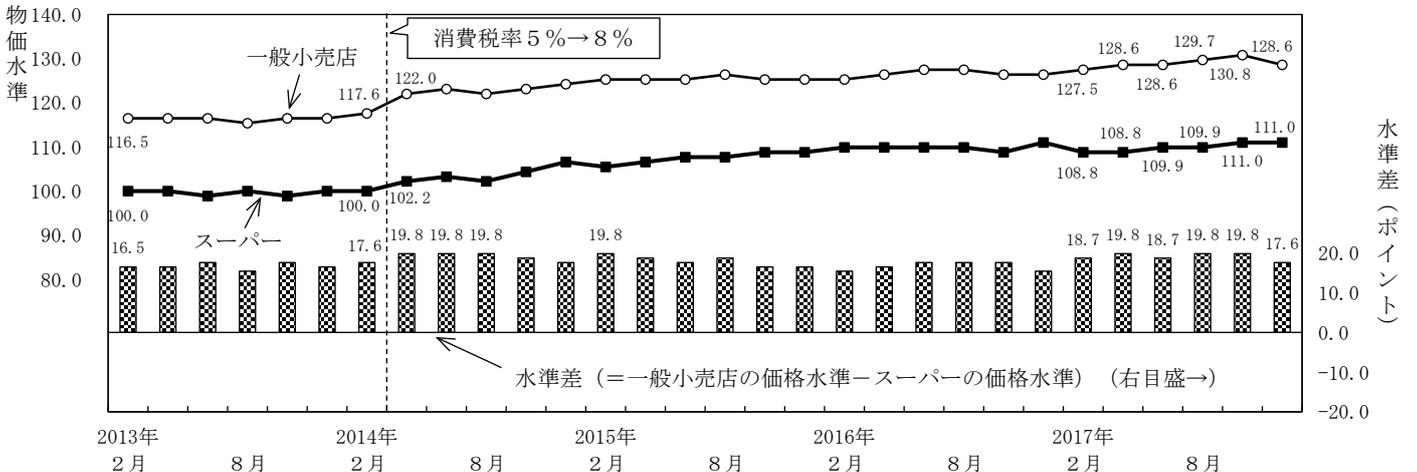
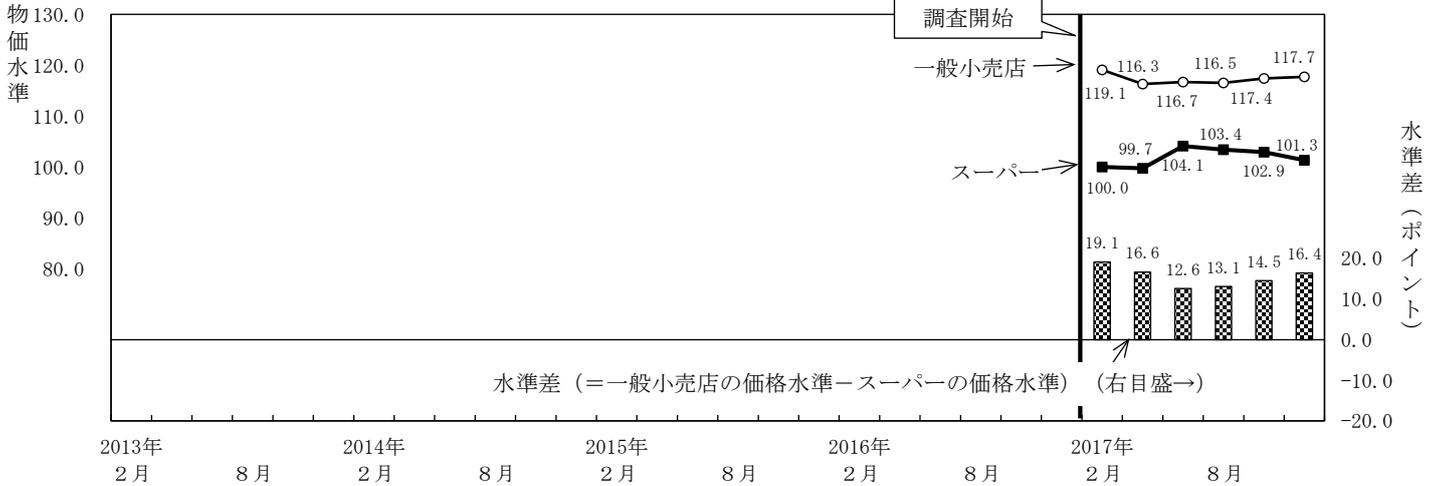


図 2-7 調査対象 4 品目の店舗形態別価格の動き

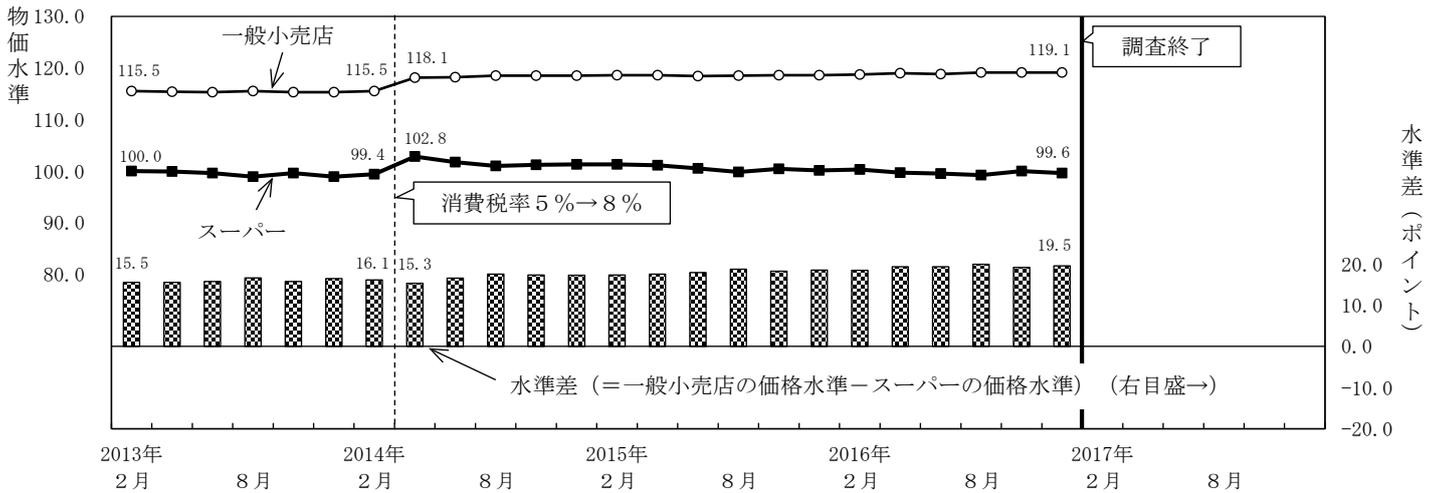
<清酒>

(2017年2月のスーパーの平均価格=100)



(参考) <ビール>

(2013年2月のスーパーの平均価格=100)



(※) 2016年12月に「ビール」の調査を終了し、翌年2月から同じ中分類(酒類)の「清酒」を調査している。

(2) スーパーと量販専門店の比較

洗濯用洗剤は、2017年の状況を見ると、スーパーは6月まで下落しているが、8月以降は上昇している。一方、量販専門店は8月まで下落しているが、10月以降は上昇している。また、価格水準差^(注1)をみると、2015年12月に-3.7ポイント^(注2)とやや拡大する傾向がみられたものの、その他の期間では比較的低い水準で推移している。

ドリンク剤は、スーパー及び量販専門店共に、税率改正時の価格の上昇を除くと、横ばい傾向となっている。また、価格水準差をみると、横ばい傾向で推移している。

紙おむつは、スーパー及び量販専門店共に、2015年後半は下落傾向がみられたが、2016年は上昇に転じ、2017年は横ばい傾向で推移している。また、価格水準差をみると、比較的低い水準で推移している。

ラップは、2017年の状況を見ると、スーパーは横ばい傾向がみられる一方、量販専門店は緩やかな下落傾向がみられる。また、価格水準差をみると、縮小する傾向がみられる。

整髪料は、2017年の状況を見ると、スーパー及び量販専門店共に、横ばいで推移している。また、価格水準差についても横ばいとなっている。

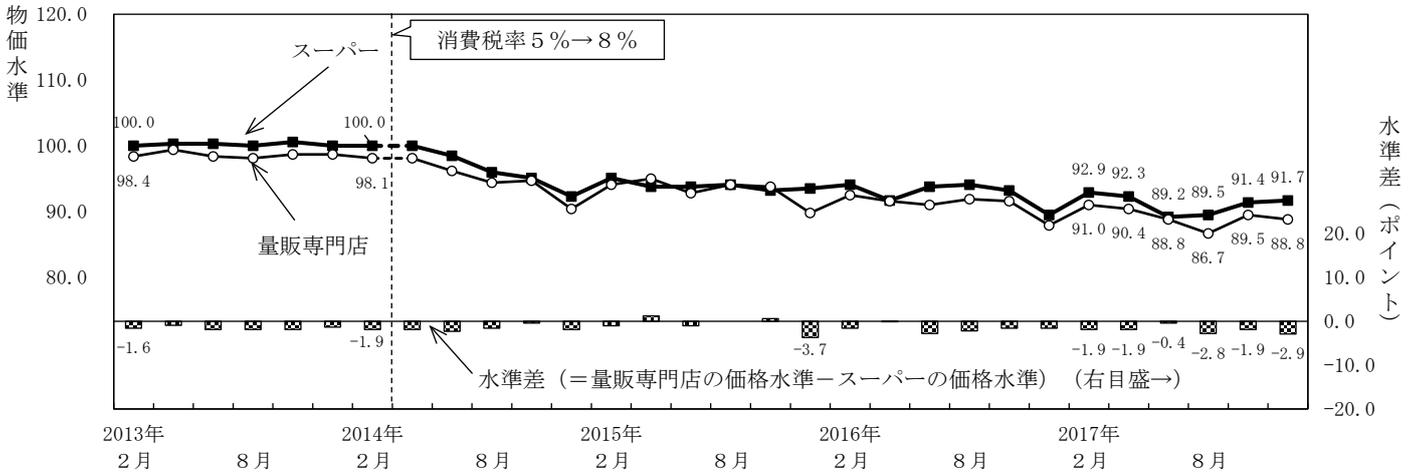
(図2-8)

(注1) 価格水準差 = 「量販専門店」の価格水準 - 「スーパー」の価格水準

(注2) マイナスの場合は、絶対値での最大値とする。

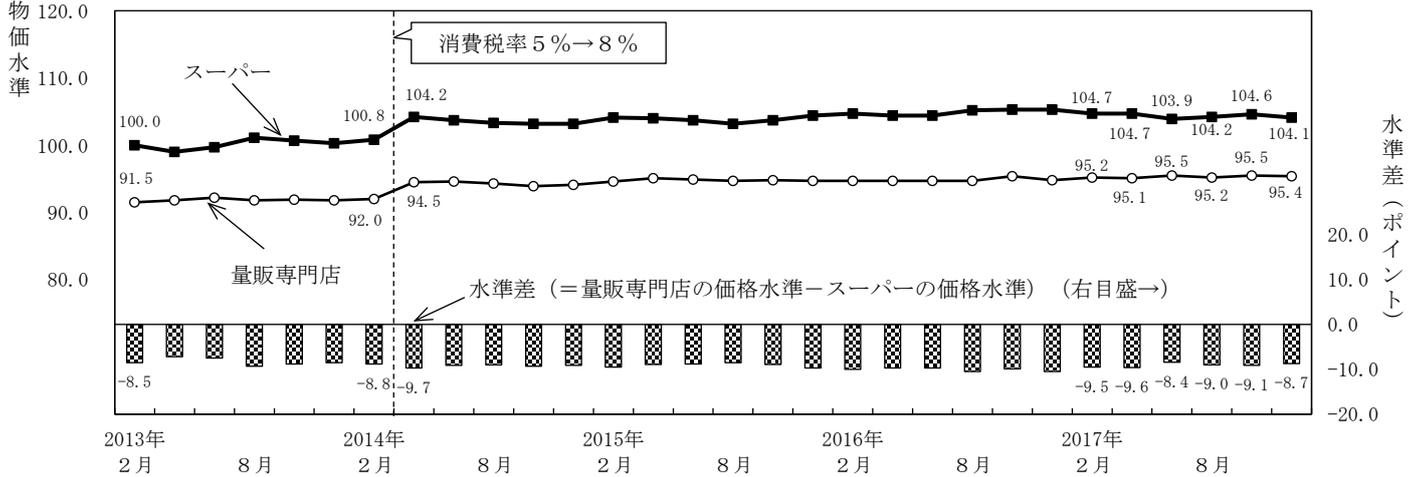
図2-8 調査対象5品目の店舗形態別価格の動き
(2013年2月のスーパーの平均価格=100)

<洗濯用洗剤>

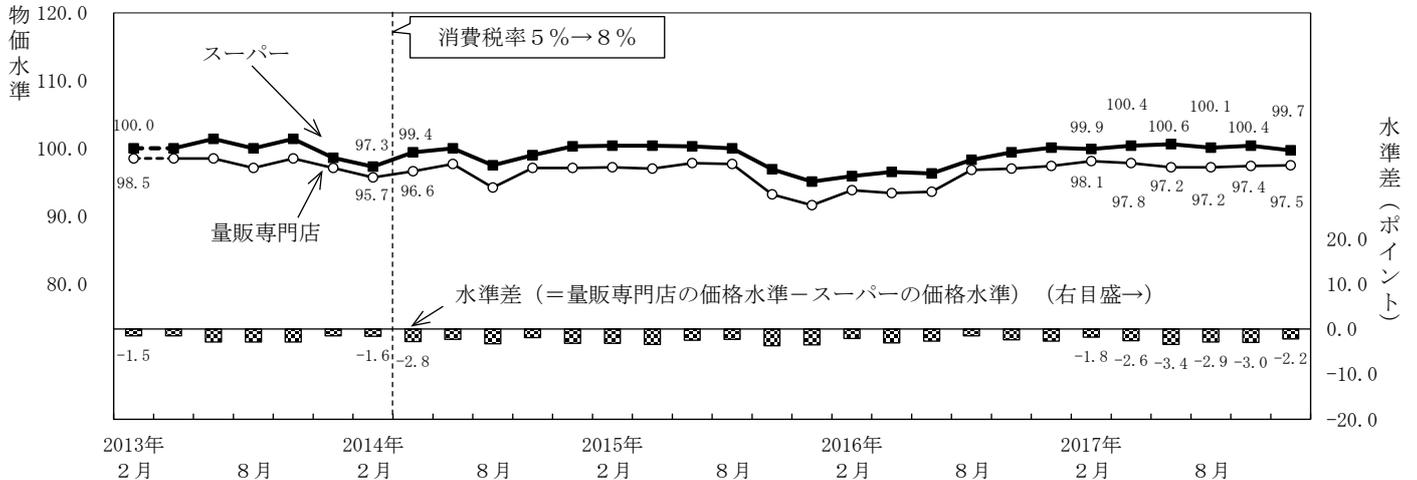


(※) グラフ上の破線 (---) は、対象期間に実施した銘柄改正のうち、旧銘柄と新銘柄で明確な品質差が存在したため、前々月と同指数 (保合) として接続していることを表している。

<ドリンク剤>



<紙おむつ>



(※) グラフ上の破線 (---) は、対象期間に実施した銘柄改正のうち、旧銘柄と新銘柄で明確な品質差が存在したため、前々月と同指数 (保合) として接続していることを表している。

図 2-8 調査対象 5 品目の店舗形態別価格の動き

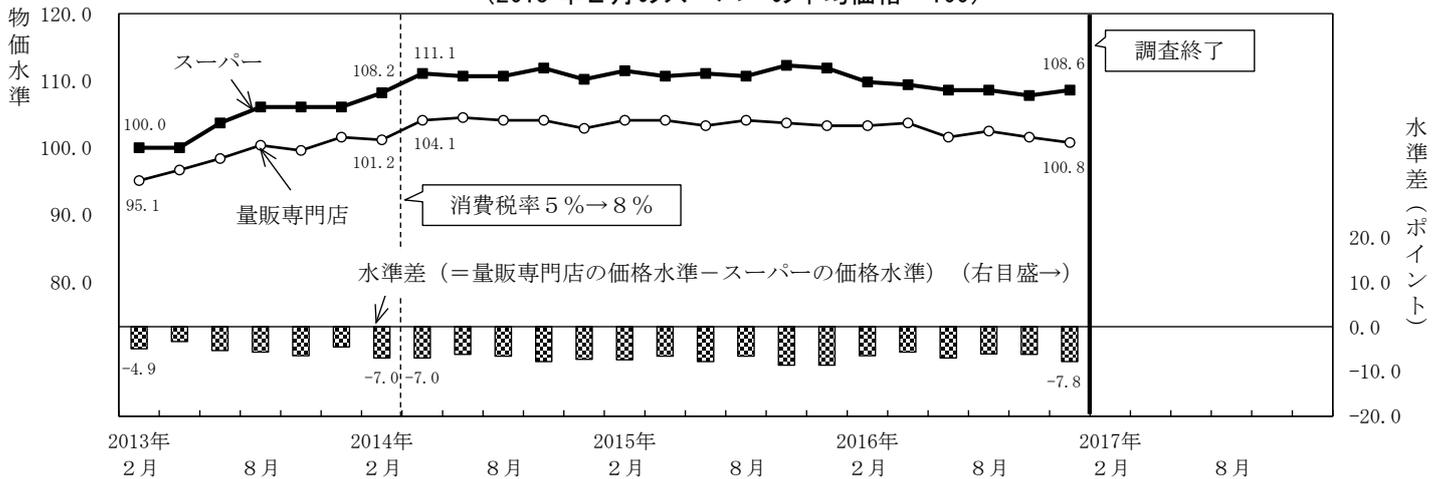
<ラップ>

(2017年2月のスーパーの平均価格=100)



(参考) <ティシュペーパー>

(2013年2月のスーパーの平均価格=100)



(※) 2016年12月に「ティシュペーパー」の調査を終了し、翌年2月から同じ中分類（家事用消耗品）の「ラップ」を調査している。

図2-8 調査対象5品目の店舗形態別価格の動き

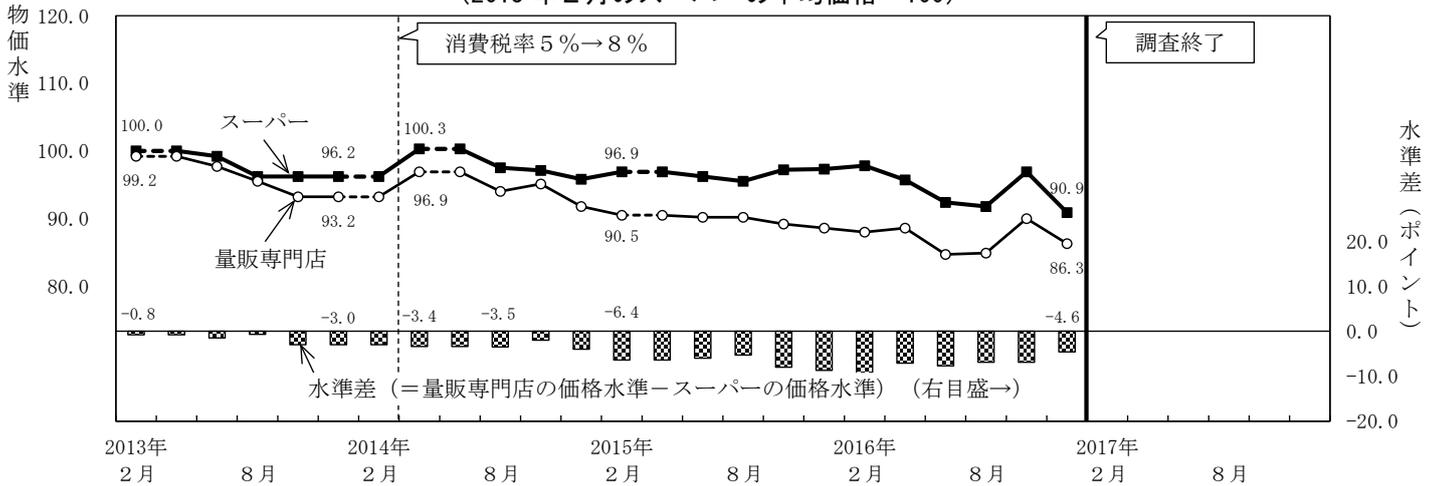
<整髪料>

(2017年2月のスーパーの平均価格=100)



(参考) <シャンプー>

(2013年2月のスーパーの平均価格=100)



- (※1) グラフ上の破線(---)は、対象期間に実施した銘柄改正のうち、旧銘柄と新銘柄で明確な品質差が存在したため、前々月と同指数(保合)として接続していることを表している。
- (※2) 2016年12月に「シャンプー」の調査を終了し、翌年2月から同じ中分類(理美容用品)の「整髪料」を調査している。